

# おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—STORY—

NO. 35



4月、新たな展開にワクワクしているのか、場所や人が替わったことにドキドキしているのか、みなさんの、ワクワクとドキドキの今の割合はいかがですか？ おだやかな春模様が背中を押してくれてはいますが、場面場面で「はじめまして」があって、小さな緊張感が、しばらくは幾つもありますね。「はあ〜」って脱力できる、家の中のあの場所が恋しくなることもあると思います。春からどんなSTORYになっていくのでしょうか。ところで、子ども達の心境は…？

新しい船に乗った子は、場所も人もグッズも目新しい。一日のSTORYを新たに描かなくちゃなりません。我が子は、人から行くタイプですか？ 場所から行くタイプですか？ グッズやおモチャから行くタイプの子もいますね。場面ごとに“しっくり”いくようになってきたら、一日のSTORYを作り始めます。“この時間はみんなで作るんだよね”“ごはんはみんなでこんなふうに食べるんだよね”“終わったら、朝遊んだあのオモチャでまた遊べるんだね”と、その子なりに見通しが持てるように。それには繰り返しの経験が必要です。見通しが持てると安心できます。ひとつひとつのことに楽しく取り組み、自分らしい力が出せるようになり、深めていくことができます。とはいえ、先の見えない過ごし方は、身も心もウロウロしてしまうので、みんな落ち着くために一生懸命です。“しっくり”いくまでの時間は子どもによって違います。無理なく働きかけつつ、子どものペースを尊重したい期間です。

同じ船には乗ったけど、人や部屋が替わった子は、何かとペースが合いません。同じことでも、一緒に過ごす人のペースが多少変わってきます。同じ場面で違うグッズが出てきたりします。同じ場面でも、やり方が違ったり、ペースが速かったりします。“こうなるはず”のSTORYが、微妙に変わっているのです。微妙な変化のほうが、新しい場所に行くよりも違和感が大きいかもしれません。昨日までの似たようなSTORYを塗り替えなきゃいけないので。

我が子は、「今日からこうなったからね」とストレートに伝えたほうが受け入れやすいタイプですか？ それとも、“古きを温めて新しきを見せていく”タイプですか？

ここで大切なのは、大人の考えじゃなくて、その子が困らない促し方がどうかを考えなきゃ、ということです。STORYを描くのは子ども自身ですからね。

4月は、子ども達に対して『新しい環境に慣れよう』という目標が掲げられがちです。その通りだと思いますが、じつは、『慣れる』ってどうなっていくことなのかが曖昧で、子どもに何をどう伝えていくかが明確でないことが多いと思います。“時間の経過と共に自然に『慣れて』行くだらう、行くはずだ”と見守られるだけでは、ヒントが必要な子は苦しくなってしまう。

そばにいる大人は、一人ひとりの子どもの『慣れる』という名のSTORY作りに、ペースを合わせ付き合い、手を貸していきたいものです。その場、その人、その遊びが楽しめるまでの期間は、短いほうが良いですよ。次の積み重ねにも勢いがつきますから。



「キミの笑う顔が見たい」から、一緒にSTORYを作っていきたいと思います。(H3 1. 4) K